

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	ぎふけんりつおおがききたこうとうがっこう				②所在都道府県	岐阜県
26～30	① 学校名	岐阜県立大垣北高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 1学年8クラス	
普通科	320	320	120		760	平成25年度在籍者総数	963名
⑥研究開発構想名	清流の国ぎふ アジアを学び世界をつなぐ1600人のリーダー育成						
⑦研究開発の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「SGH 課題研究」（1・2年生各2単位、3年生1単位）を導入し、全生徒を対象に、系統的・段階的な課題研究を実施し、その教育課程を開発する。 ・グローバル、特に東南アジア、東アジア諸国における社会・ビジネス課題を題材とし、専門的な知見を有する大学（東京大学大学院教育学研究科グローバル社会の教育課題研究会、名古屋大学大学院国際開発研究科等）やアジア諸国に事業展開する大垣のグローバル企業等と連携を図り、カンボジア・ベトナムでの海外フィールドワーク・インターンシップを効果的に位置付けて実施する。 ・各教科での言語活動の充実や英語の授業と課題研究との効果的な連携を図るとともに、課題研究の基盤となる論理的思考力・表現力を身に付ける言語技術指導を導入する。 						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文理問わず全生徒（学年320名、平成26年度から学年進行で実施）を対象として、大学や企業との連携の下で、グローバルな社会・ビジネス課題を題材とした課題研究を行う「SGH 課題研究」の教育カリキュラムを確立する。 ・平成30年度末までに、計1600人の生徒を対象に、体系的・系統的な「SGH 課題研究」を実施し、グローバル・リーダーとしての資質・能力を育成する。 ・平成31年度までに、SGH 事業の成果を活かし、大垣北高等学校を含めて 計6校程度の高等学校普通科において、大学や企業等と連携した課題研究を学校設定科目等として導入し、高等学校教育の改革を推進する。 <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p><現状分析></p> <p>1・2年生の全生徒を対象に実施した「グローバル・リーダー育成のための生徒意識行動調査」の結果からは、生徒の学力・ポテンシャルは高いものの、自ら様々な活動や自己研鑽の機会を求めていく行動力や、自律的に学ぶ姿勢、グローバルな視野や関心、自分の考えを文章にまとめて説明するなどの論理的表現力に課題がある。</p> <p><研究開発の仮説></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SGH 課題研究」に取り組むことにより、課題発見力・設定力、他者と協力して課題解決できる力、論理的思考力・表現力、グローバルな視野、関心など、グローバル・リーダーに求められる資質・能力を育成できる。 ・国語を中心に、言語技術指導プログラムを導入することにより、国際的に通用する論理的思考力・表現力を育成することができる。 ・課題研究と英語の授業の効果的な連携を図ることにより、相乗効果を発揮し、英語によるコミュニケーション能力の伸長を図ることができる。 <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用 ・研究会や交流会において、県内外のグローバル人材育成を目指す高校への発信 ・高校説明会やメディアを通じて地域社会・地元企業・大学への成果の発信 					

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際開発分野：アジアの開発課題の実態、国際貢献の在り方について政策志向の研究 ・国際ビジネス分野：グローバル企業の経営戦略や国内外でのCSR活動の可能性を研究 ・環境エネルギー分野：文理融合テーマ 環境エネルギー分野での国際貢献 ・国際医療分野：HIVを題材に国際医療福祉の課題を学び、国際社会、日本の関わりを考察 ・比較教育分野：グローバル化が進展する教育政策・実践の動向から世界の潮流を捉える <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SGH 課題研究」は平成26年度入学生から学年進行で実施。 ・1年生8クラス320名全員を対象に、「SGH 課題研究-1」を2時間連続・一斉展開で実施（実施曜日は調整中であるが、第6・7限に実施予定）。 ・連携先大学、主に名古屋大学及び岐阜大学の大学院に在籍する留学生等を各クラス1～2名ずつティーチングアシスタント（TA）として配置し、入門研究への指導助言を受け体制を整備。（学校での指導のみならず、メールでの質問対応等もできる方向で調整） <p>◆生徒意識行動調査による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH 事業に申請をしていない県立高校2校を対照グループ(control group)として設定し、経年変化等を比較分析することにより、客観的にSGH 事業の成果を具体的に明らかにすることができる。 ・保護者、教職員へのアンケート調査の実施も検討する。 <p>◆レポートや研究論文等、生徒の成果物等を基にした評価、連携機関からの評価</p> <p>◆アウトカム、アウトプット指標の達成状況に関する評価</p> <p>◆卒業生への追跡調査</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p><1年生全生徒対象（平成26年度から）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「SGH 課題研究-1」1単位分で、「総合的な学習の時間」1単位を代替する。 ・学校設定教科「SGH 課題研究-1」1単位分で、「社会と情報」1単位を代替する。 <p><2年生全生徒対象（平成27年度から）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目「SGH 課題研究-2」1単位分で、「総合的な学習の時間」1単位を代替する。 ・学校設定科目「SGH 課題研究-2」1単位分で、「社会と情報」1単位を代替する。
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>○言語技術指導とそれを基にした言語活動による論理的思考力・表現力の育成について</p> <p>「国語総合」を中心に言語技術指導を取り入れ、その技術を全教科及び課題研究で実践することによって、国際的に通用する論理的思考力・表現力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証評価：小論文、エッセイ、レポート、発言内容及び定期考査での記述内容など 授業評価、生徒の意識行動調査における生徒の意識変容 <p>○英語によるコミュニケーション能力の伸長について</p> <p>4技能を総合的に取り入れた授業改善、課題研究と英語の授業を有機的に関連付けた指導法の開発、実践的コミュニケーション活動への参加により、英語運用能力を向上させるとともに、課題研究のための基礎を養い、コミュニケーション能力の伸長を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証評価：TOEFLを受験し、国際的な基準で生徒の英語力を検証評価する。 生徒質問紙調査を実施し、英語学習に対する意欲等について検証する。 <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国高校生英語ディベート大会等、各種コンテストへの参加 ・海外の高校との姉妹校提携・国際関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国テキサス州チャードソン高校、パークナー高校 ・カンボジアシソワット高校 ・ユネスコ・タイ事務所との連携 ・岐阜県や大垣市海外交流プログラムなどの短期留学生等の積極的な受け入れ ・海外研修の実施：課題研究のフィールドワークとして地元企業の現地工場視察 カンボジアシソワット高校との共同研究の実施

ふりがな	ぎふけんりつおおがききたこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	岐阜県立大垣北高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定 (アウトカム)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(28年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	800人
	SGH対象生徒以外:		117人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 能力の高い生徒が、課題研究に取り組むことにより、社会における自己の責任感が高まったり、探求心が深められ、自主的に社会貢献活動や大学のセミナーやワークショップ等に参加する生徒が増加する。8割以上の生徒が参加することを旨とする。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	0人	1人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 大学との提携による留学生との交流、海外提携先の高等学校への研修参加を通じて、さらに学ぶために自ら海外に行こうとする生徒が増加する。1、2年生各クラス1名以上の希望者(16クラス+α)を目指す。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		56%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 課題研究によってグローバルな視野が確実に身に付いたり、自分の力を海外で試してみたいという思いが強くなり、留学したり、大学卒業後、海外就業が前提であると考えられる生徒が増加する。8割以上の生徒が希望することを目指す。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:		10人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 公的機関から表彰された生徒のうち、学業に関わる取組に関するものについて取り上げた。各種大会を課題研究の成果を発表する機会と捉え、多くの生徒が参加し、入賞することを目指す。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	58%	60%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 国内外のフィールドワークや、課題研究におけるプレゼンテーションやディスカッションなど英語を使う機会が増加することによって、英語によるコミュニケーション能力の伸張を図ることができる。									
論理的表現力									
①自分の考えを適切に文章にまとめることができる生徒の割合									
f	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		26%	%	%	%	%	%	%
②他の人が理解しやすいように説明できる生徒の割合									
f	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		31%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 課題研究を通じて、論文のまとめ方を習得したり、発表する機会を多く設けることで、分かりやすく説明できる生徒が増加する。8割以上の生徒が自信をもって発表できるようにする。									
毎月3本以上書籍や論文を読んでいる生徒の割合									
g	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	75%
	SGH対象生徒以外:		16%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 課題研究を進めることにより、不明な事項や研究をより深めたい事項について、研究論文等を自主的に読む生徒が増加する。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(30年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	44%	37%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方:現状で40%程度の進学割合となっているが、課題研究を通じて、将来グローバル人材として活躍するために、これらの大学に進学したいという意識が向上し、卒業学年の半数以上の生徒が進学することを目指す。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	1人	0人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方:進路選択に海外大学に進学希望者が増加し、3年生各クラス1名以上の進学者(8クラス+α)が出ることを目指す。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方:大学、企業との連携を通じて、「課題発見力」「課題解決力」が確実に身に付き、さらに社会的関心や要請を感じ取りながら自分の適性を正しく選択できる生徒が増加する。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	240人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方:平成29年度、平成30年度に大学に入学した学生の、それぞれ1/3以上が留学又は海外研修に参加するものとして算出。30年度末までに2学年合わせて240名ほどが参加することを目指す。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(28年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	23人	人	人	人	人	人	90人
目標設定の考え方: 共同研究を行う海外提携校や企業の海外事業所等でのフィールドワーク等を実施する。毎年30名程度海外フィールドワーク、海外インターンシップに出かけ、3年間で90名以上参加する。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	57人	56人	人	人	人	人	人	960人
目標設定の考え方: 課題研究について、各学年320人が大学や企業に行き、研究成果の発表を行ったり、大学関係者や、留学生、企業関係者と意見交換等を行う。平成28年度末までには、全校生徒が参加する。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c		2校	校	校	校	校	校	3校
目標設定の考え方: 1年目はカンボジア シソワット高校と連携し、その後プノンペン大学等現地の高等教育機関とも連携するなどして研究内容を深める。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	32人	35人	人	人	人	人	人	430人
目標設定の考え方: 提携4大学より大学教員による指導1、大学院生、外国人留学生による指導6の割合で課題研究を指導を受ける。2年目以降、提携を確固たるものとし、大学院生や外国人留学生を増やしていく。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	1人	3人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 地元提携企業企業より、年間3回(1回各10人)の課題研究の指導を受ける。2年目以降、より提携を深め参画者を増やしていく。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f		0人	人	人	人	人	人	200人
目標設定の考え方: 課題研究の研究成果を発信する場として、国内外の大会で発表したり、論文コンテスト等に応募する。英語の授業等で作成した英文エッセイなど国内外のコンテストに応募する。また、課題探究の成果発表のコンテストなどを実施し、他校との交流の機会を設けることで、参加人数を増やす。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	51人	54人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 長期留学生は年1~2人、短期訪問団(姉妹提携高+その他の団体)を積極的に受入れる。3年目には現在の2倍の受入れを目標とする。								
先進校としての研究発表回数								
h		9回	回	回	回	回	回	20回
目標設定の考え方: 各教科研究会などにおける成果発表の機会の増加、また、連携先との交流の深まりにより、相互発表の場や大学・企業への研究成果の報告の場の増加を想定する。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	△	△						○
目標設定の考え方: 学校ホームページを生徒の情報発信の有効な手段として活用し、英語の授業などで生徒の手によるホームページの作成、更新を行う。常に最新情報を提供するとともに、課題研究のツールとして、連携先の大学や企業、海外提携先との情報交換の場とし、共同研究に発展させる。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	960	963					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							